

# 健康経営の要となる衛生委員会を牽引 CHO室(健康経営推進室)の存在に注目

## 株式会社ベンチャーバンク

ベンチャーバンクは、1990年に前身となる有限会社トータルアクセスカンパニーを創立してからネットカフェ事業や健康食品通販事業などを立ち上げて成功し、2005年4月に株式会社ベンチャーバンクを設立。以降も新規事業を創出し、2016年10月にホットヨガ事業を手がける株式会社LAVA Internationalやインドアサイクル専門スタジオを展開する株式会社FEEL CONNECTIONを分社化してからは、新規事業の創出を行うインキュベーション・カンパニーとなる方針を掲げて、「人々の健康寿命の延伸」をビジョンにフィットネス事業や介護予防事業なども展開して躍進を続けている。現在、7つのグループ会社があり、グループの従業員数は6,042人、2019年2月期のグループ総売上は521億円となっている。

### 1. 次々に手が挙がる、活発な衛生委員会

「健康寿命の延伸」をテーマに掲げて多様な事業を手がけている同社では、「好き!を仕事に人生をワクワク生きよう。そして、自分自身と、関わるすべての人を幸せにしよう」を企業理念に掲げている。

柔軟かで楽しい印象のこの理念は、まず、従業員1人ひとりの幸せがあってこそ、労働生産性・知的生産性が向上し、多くの事業を創出し、発展させることができ、事業を通して人々の健康、幸せに貢献することができる、という考え方がベースになっている。そして、「幸せ≒健康」と位置づけ、従業員の健康保持・増進のための活動(健康経営)は、同社の理念そのものであるとして、とりわけ大切にしている。

その中心となる衛生委員会は、人事部の松本清秀まつもとときよひでさんが衛生管理者、産業医の三宅琢みやけたくさん、保健師の川越美知代かわごえみちよさん、グループ各社の事業場から選ばれた委員

など15名で構成されているほか、法的には衛生委員会を設ける義務がない規模の事業場からもオブザーバーが参加しているという。

衛生委員会は、毎回1時間。そのうち20分で労務報告などを行い、三宅さんや川越さんによる健康情報や従業員のコンディショニングに関する講話が10～15分程度、残りはすべて委員やオブザーバーからの質問タイムだ。これが非常に活発で次々に手が挙がり、質問者は途絶えることがなく、予定時間を過ぎることもあるという。

なぜそんなに活発なのか。三宅さんは、そもそもの企業風土にあるモチベーションの高さを上げる。もちろん、それもあるだろうが、三宅さんを始めとする産業保健スタッフの工夫によるところも大きい。その工夫の中心にあるのが、CHO室と呼ばれる「健康経営推進室」だ。

### 2. 社長が室長を務めるCHO室とは

一般にCHOというと、最高健康責任者(Chief Health Officer)、あるいは最高人事責任者(Chief Human-resource Officer)を意味するが、ベンチャーバンクでは、前述した同社の企業理念を色濃く反映して、Chief Happiness-incubation Officerの略としている。Googleなど、「最高従業員幸福責任者」(Chief Happiness Officer)という役職を導入する企業はほかにもあるが、ベンチャーバンクの場合は企業理念そのものから発しているようだ。社員の幸福度向上を目的に健康保持・増進活動を行う最高責任者を意味し、代表取締役社長の佐伯信行さえきのぶゆきさんが兼任する。そのCHOが室長を務める特別な部署が健康経営推進室であり、通称として「CHO室」と呼ばれることが多い。

このCHO室は、衛生委員会と連携する別組織ではあるが、産業医の三宅さんが室長補佐を務め、保健師の

川越さんや衛生管理者の松本さんも所属する、実質的には衛生委員会の中核機能を担う精鋭チームであり、過去に実施した取組内容の効果測定を行いながら、より健康になるための新たな施策やアイデアを次々に打ち出している。しかも、室長が社長なので話が早い。同社の衛生委員会が目立って元気な秘密はここにあった。

このCHO室の働きかけから生まれた取組にはユニークで人気が高く、効果的なものが多い。例えば、従業員の運動機会の創出を目的に、同社グループのフィットネスサービスなどを就業時間中に無料で利用できる「Cheer-Up制度」、14時45分に一齐にストレッチ体操を行い、デスクワークによる心身の疲労回復効果を図る「夕活」、日頃感じている同僚の長所を具体的に称賛し、感謝の気持ちをカードに書いて伝える「ほめるDAY」など、誌面では紹介しきれないほど多様な取組が進められている。

アイデアを出しているだけではなく、CHO室は社員への情報の発信を非常にアクティブに行っている。

代表的な試みが「CHOチャンネル」という社内メディアだ。毎月1回、衛生委員会が開かれる日が収録日。人事部のスタッフによって、撮影・編集され、配信の仕組みはYouTubeを利用したもので特別な費用はほとんどかからないという。番組の内容は、三宅さんと川越さんがメインキャスターを務め、衛生委員会での講話とシンクロするホットな話題についてラフな感じでおしゃべりをする、というものだが、内容が身近でわかりやすいこともあり、結構人気があるらしい。おかげで社員たちも「YouTuber」の三宅さんたちに格別の親しみを感じるようになった。

今後は、扱うテーマのリクエストを視聴者である社員から募集するなど、双方向的な試みを取り入れていくことも考えているそうだ。衛生委員会を活気づけている最大の功労者はこの番組なのかもしれない。

### 3. 現場と産業保健の専門家が息を合わせて

CHO室が衛生委員会を牽引していく態勢が整ったのは2018年8月のこと。その成果は、「健康経営優良法人2019 ホワイト500」に認定されたことや、全従業員の健康診断結果が肥満・血糖・血圧・脂質・肝機能の全項目において業態平均を上回って優良であったことなどに表れている。さらに川越さんは、「従業員の皆さんの



CHOチャンネルの第1回のワンシーン。左から社長兼CHOの佐伯さん、保健師の川越さん、産業医の三宅さん。このときは社内の健康診断結果から健康レポートを配信。毎回このような対話形式で健康に関わるテーマをわかりやすく伝えている

健康に対するモチベーションが高く、かつ、産業保健スタッフの提案などを各現場で咀嚼し、活かそうとする力があるので、衛生委員会を開くたびに参加者の質問も取組も成長していることを実感しています」と話す。委員それぞれが委員会の話題を自分事として勉強し、現場に持ち帰って広める行動をしているという。

三宅さんは、「社員の幸福度向上を真剣に考えている社長の吸引力がまず力強く、各現場には熱心に勉強している社員がいる、そういう方々が『ほめるDAY』などの取組を自発的に考えて実施している。会社の各現場の担当者、産業保健の専門家が対話をしながら、現場のニーズを引き出し、実践、検証し、次に反映させる。これが、取組が成長していると実感できるポイントではないでしょうか。医学のエビデンス、現場のエビデンス、最終的に実行する事業者の現場力、これらが機能していることが大事だと思います」と現在の活動を語る。

衛生管理者の松本さんは、「三宅先生たちが専門的な支えをしてくださることと、熱心な職場巡視に現場が協力的なので衛生管理者としては大変助かっています。私の役目は、出てきたものを実践すること。今後も現場の声を聞きながら努めていきます」と抱負を語る。

同社の衛生委員会とCHO室が展開していく今後の取組に注目したい。

#### 会社概要

株式会社ベンチャーバンク  
事業内容：健康食品・化粧品販売事業、フィットネス事業、eコマース事業、パーツ美容事業、新規事業開発など  
創 立：1990年12月（設立：2016年10月）  
従 業 員：6,024人（社員4,317名、アルバイト1,725名）※グループ社員数、2019年7月末現在  
所 在 地：東京都港区